

きのこ写生図作成にあたっての諸注意

準備すべきもの

生材料（幼個体、成個体、老個体が揃っておれば理想的だが、それが望めない場合にはなるべく成個体をえらぶ。虫の入っていない新鮮な材料を用いる。）

用紙（ケント紙または画用紙）

鉛筆（H、2H、3H など）

筆（習字用の細筆、面相筆など）

ものさし、ナイフ、消しゴム、ふきん、

筆洗（ありあわせ物でよい）、

定規（測定できるもの）、

水彩絵の具（チューブ入り 12～24 色）または色鉛筆

写生にあたって

1. なるべく実物大に描く。ごく小形のきのこや大形のきのこは拡大、縮小してもよいが、そのさいは必ず×2とか×1/2とかのように倍率を記入すること。
2. はじめは鉛筆で軽く外形を描き、のち細い明瞭な線で輪郭を描く。不用の線は消しゴムで消す。細かい点にいたるまで見落とさないよう正確に描写すること（鱗片や微細な毛など）。なるべく断面図も添えるよう。
3. 着色に当たっては、淡色を何度も塗り重ねて色を出すことが肝要で、最初から濃い絵の具をべたべた塗りつけないこと。
4. 傘や柄の表面が繊維状とか粉状のものは、細い筆先でその感じを出す。はじめ鉛筆で輪郭を描いたさいにそのような感じを出しておいて、着色に当たって鉛筆での線や点



本郷先生きのこの絵の描き方講座で 1996.10.13

を生かすのもよい。

5. 変色性のあるきのこは色の変化がよくわかるように表現すること。ことに断面図においてあらわすとよい。
6. 淡色を出すために絵の具の「白」を用いるのはよくない。できるだけ水で溶いて薄めること。また「黒」を用いて陰影をつけないこと。
7. 最後の段階で、輪郭を細い筆先で修正するとよい。

最近植物を正確に描写する Botanical Art を学んでいる人があると聞いているが、これはきのこの写生にもそのまま応用できるので、大いに役立つことであろう。

※1996年10月13日に、千葉県立中央博物館で開催された、菌学講座3「ハラタケ目の分類」特集「きのこの絵の描き方」テキストに添付された資料。